令和８年度

「運営に関する計画」（中間評価）

大阪市立宝栄小学校

大阪市立宝栄小学校　令和８年度運営に関する計画・自己評価（総括シート）

学校運営の年度目標

現状と課題

本校では、「学びあう、心を見つめ合う、たくましい児童を育てる」を目標とし、一人一人の子どもにとっての安心・安全な居場所、活躍の場を作るとともに、子どもたちが生き生きと楽しんで考えや思いを伝えあうことができることを目指して研究・実践を進めている。

例年、不登校や学級に入れない児童で、これまでと違って友達関係に起因するものが複数あがっている。学級でのトラブル処理をどうするかが問われるものと考える。不登校やいじめ事案に関して、今回の運営に関する計画の最終反省にて確認する。

昨年度は、ポジィティブ行動支援（PBS）に取り組み、子どもたちの学校生活の質の向上につながる「望ましい行動」を可視化し、褒めたたえる機会を増やすことで、より良い学級、学校づくりについて考えることができた。引き続き、より良い集団を育成できるよう取り組みを実施していく。

授業の中で対話ができる場を作ることで、自分の意見を言ったり友だちの意見を聞いたりすることができるようになった。今年度も「伝え合う力」を育てるため、自分の思いや考えを、正しい言葉で豊かに表現できるよう研究を進めていく。また、基礎学力の定着のため、2 学年において漢字検定の団体受験を行う。さらに、自主学習環境を整えることで、学習意欲の向上を図り本校児童の学習課題を克服する。

中期目標

【安心・安全な教育の推進】

① 小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 72%以上にする。

② 小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 90%以上にする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 86%以上にする。

② 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 91%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

① 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 68%以上にする。

② 教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下の教職員の割合を 8 割以上にする。

③ 小学校学力経年調査における「読書はすきですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。

本校の課題解決に向けた取り組みの重点

（1） 安全・安心な教育の推進

だれもが安心できる学級集団づくり

- ○ 日常的に取り組むこと（異学年交流、いいとこみつけなど）
- ○ トピック的に取り組むこと（イベント、いじめを考える日など）
- ○ PBS（ポジティブ行動支援）に基づいた支援
- ○ アサーショントレーニングに代表される言い方や方法論を重視した指導

（2） 未来を切り開く学力・体力の向上

自ら問いを発し、解決していこうとする学習活動の創造

- ○ 家庭学習の定着、自主学習の推奨
- ○ 外部講師の招聘
- ○ ICT 機器の有効な活用
- ○ 体育学習での多様な運動に取り組む

（3） 学びを支える教育環境の充実

教育 DX の推進　　教員の働き方改革　　生涯学習の支援

- ○ 一人一台 PC の日常的な使い方を創造する
- ○ 会議の精選と時間短縮（ペーパーレス化の追求）
- ○ 読書への興味を高める環境整備

評価基準　A:目標を上回って達成した　　:目標どおりに達成した C:取り組んだが目標を達成できなかった　D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標〈安心・安全な教育の推進〉	進捗状況
取組内容①【基本的な方向１　安全・安心な教育環境の実現】 いじめへの対応 ○「いじめについて考える日」や道徳の学習を通して、いじめについて認識を深める取り組みをする。 ○　いじめが起こりにくい学級集団づくりに取り組み、いじめアンケート等でいじめを把握した際は迅速に対応する。 指標 ・　小学校学力経年調査における「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（昨年度 69.7%）	
取組内容②【基本的な方向２　豊かな心の育成】 自尊感情、自己肯定感 ○　学級の取り組み、学校行事、異学年交流を通して自尊感情や自己肯定感を育む。 ○　PBS(ポジティブ行動支援)に基づき、望ましい行動を育てる集団を育成する。 指標 ・　小学校学力経年調査における「自分には良いところがあると思いますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 88%以上にする。（昨年度 87.8%）	

年度目標の達成状況や取組の結果と分析
取組内容①　いじめへの対応 ・児童が安心して過ごし、ささいなことでも先生に相談できる学級、学校づくりは、いじめ防止の基盤である。学校生活アンケートにおいて「いつでも先生に相談できる」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は 70.1%であった。いじめについて考える日での全校児童への講話や道徳の学習を通して、いじめの認識を深めている。引き続き、心の天気や児童の日々の様子を観察し、小さな SOS を見逃さないように教職員全体で児童の状態を把握していく。 **取組内容②　自尊感情、自己肯定感** ・学校生活アンケートにおいて「自分には良いところがある」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は 87.9%であった。PBS 活動を推進するにあたり、各学級で具体的に取り組む内容を設定し、その活動内容を掲示板や教室に掲示することで、全員が意識して取り組んでいる。また、集会活動やふれあい遠足、宝栄フェスティバルなどのたて割班活動も

取り入れ、異学年交流も行っている。
・月目標とつなげつつ PBS 週間を設けることで、望ましい行動を意識させ、できたことをみんなで認めていく。経年調査による「自分には良いところはあると思いますか。」の肯定的回答につなげていく。

次年度への改善点

（最終評価で記入）

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標〈未来を切り拓く学力・体力の向上〉	進捗状況
取組内容①【基本的な方向４　誰一人取り残さない学力の向上】 主体的、対話的で深い学びをめざす ○　研究授業、研修会を積極的に実施し、個別最適な学びの在り方、協働学習により学びを深める指導に取り組む。 ○　自主学習を奨励し、週に１回、自主学習に取り組む。 指標 ・　小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 84%以上にする。（昨年度 81.9%）	
取組内容②【基本的な方向５　健やかな体の育成】 基礎体力の向上につなげる ○　運動用具を精選し、児童が夢中で遊ぶことができる環境づくりを行い、運動が楽しいと思える児童を育成する。 ○　様々な種目・運動を紹介し意欲的に取り組める体育学習を工夫する。 指標 ・　小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を 91%以上にする。（昨年度 90.3%）	

年度目標の達成状況や取組の結果と分析

取組内容①　主体的、対話的で深い学びをめざす

・研究授業、研修会を計画的に実施することができている。学校生活アンケートにおいて「話し合いで考えを深めた」という項目で肯定的な回答をした児童の割合は８３％で、話し合い活動を通して考えを深めたり、新たな考えに気づいたりする児童は昨年度より増えてきている。継続して授業内で話し合い活動の機会を設けていく。
・自主学習も各学年で推進している。継続して取り組みを進めていく。

取組内容②　基礎体力の向上につなげる

・学校生活アンケートにおいて「運動は楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合は９０％でわずかに目標数値には届かなかった。目標を達成できるよう、体育主任を中心に体育研修会に参加、伝達講習を行い指導力の向上を図ることで児童の運動に対しての意識の向上を目指す。

・運動用具の入れ替えを少しずつ行っている。来年度に向けて、古いものや壊れているものを新調し、引き続き児童が楽しく運動ができる環境を整備していく。

次年度への改善点

（最終評価で記入）

「大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標〈学びを支える教育環境の充実〉	進捗状況
取組内容①【基本的な方向６　教育 DX の推進】 ＩＣＴの活用 ○　児童が学習端末を使用しやすい環境を整備する。 ○　各教科の学習を通して情報活用能力、情報モラル等の育成を図る。 ○　Canva や生成 AI などを活用し、ワークシートや資料等の作成を行う。	
指標 ・　小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、調べた情報をもとに、課題を解決するために情報を収集・整理し、まとめ・表現する取り組みをしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。（昨年度 61.5%）	
取組内容②【基本的な方向７　人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 働き方改革 ○　会議の精選と時間短縮、ペーパーレス化の追求 ○　勤務時間のフレキシブル化を図る ○	
指標 ・　「学校園における働き方改革アクションプラン」に基づき、教員の 1 か月あたりの平均時間外勤務時間を月 20 時間以下とする。（昨年度 19 時間 57 分：2 月までの累計）	
取組内容③【基本的な方向８　生涯学習の支援】 読書力の向上 ○　読書時間を確保し、読書習慣を身につけさせる。 ○　読書への興味を高める環境整備を行う。	
指標	

・　小学校学力経年調査における「読書はすきですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を 68%以上にする。（昨年度 66.4%）	

年度目標の達成状況や取組の結果と分析

取組内容①　ＩＣＴの活用

・児童がいつでも取り出せるよう端末の保管場所を工夫し、日常的にＩＣＴを活用している。低学年では、SkyMenu の発表ノートを活用し自分の考えを共有したり、オンラインコグトレで認知機能を高める学習に取り組んだりしている。高学年では、Classroom や Teams での連絡帳の配信を行ったり、今日の 1 日の予定連絡等を navima を活用し児童に配信したりして共通理解を図っている。今後は校内で事例の共有を図っていく。

・情報モラル教育は、3～5 年生に出前授業を実施済みで、6 年生も 3 学期に実施予定である。

取組内容②　働き方改革

・今年度の平均時間外勤務時間（９月までの累計）は２１時間３２分で、昨年度の１９時間４５分を少し超えている。勤務時間については、それぞれの生活に合わせて変更し、フレキシブル化を図ることができている。

・Teams 掲示板、SKIP 掲示板の活用により会議回数、時間の削減に努めている。職員会議は、資料を事前に掲示して目を通してもらうことで時間の削減に努め、児童共通理解も含めて１時間程度で終えているので、継続して取り組んでいく。行事、研修、会議の精選を引き続き行い、放課後の時間の確保できるようにする。

取組内容③　読書力の向上

・学校生活アンケートにおいて「本を読むのは好き」と肯定的に回答した児童の割合は６４％であった。読書への興味を高めるために、委員会の活動では、1 学期はビンゴカード、２学期は読書週間の取り組みを行った。また、図書館司書との連携を行い、児童が興味を持ちそうな本をアンケートの結果をもとに充実させたり、新しい本のコーナーを設けたりするなどの取り組みを行った。

次年度への改善点

（最終評価で記入）